



入間野武雄の日記 明治35(1902)～昭和14(1939)年

欠年もあるが、武雄自身が記した日記が14冊残っている。内閣総理大臣秘書官など自身の業務に関わる事柄が多く記されており、当時の歴史を知る上で非常に重要な資料である

奥州遺産

―ときを越え

受け継がれるもの―

第135回

入間野武雄関係文書

水沢

入間野武雄(1890～1958)は現在の奥州市水沢出身の官僚で、齋藤實内閣の総理大臣秘書官などを歴任した。

武雄が遺した文書群は遺族から旧水沢市に寄贈され、現在は齋藤實記念館に収蔵されている。資料数はおよそ四百点で、武雄の日記や實からの書簡、業務に関する書類などが含まれている。このように、本文書群は武雄の活動に関係するものが中心となっており、『入間野武雄関係文書』と呼称すべき一群と言えよう。

武雄の日記には多くの出来事が記されている。例えば二・二六事件での實の遭難に対しては「温容玉ノ如ク人ノ恨ヲ受クベキ何物モナキニ此最後ヲ見ル」とあり、事件に接した人物の貴重な肉声を知ることができる。

現在、戦前は遠い歴史となりつつある。これらの歴史を守るためにも、当時の資料が失われないように受け継いでいかなければならない。

広告